

## 特例子会社にて様々な職務を創出 マンパワー・ジャパン株式会社

- 所在地 横浜市西区
- 事業所数 本社・支店・事業所 拠点数約110

- 雇用障害者: 肢体不自由者、視覚障害者、聴覚障害者、内部障害者、知的障害者、精神障害者

# 障害に応じた職務を絶えず創出 マッサージセラピストで就業する視覚障害者

## 障害に見合った仕事を次々と創設 内容もレベルも多岐に

横浜ランドマークタワーに本社を置くマンパワー・ジャパンは2001年、特例子会社としてジョブサポートパワー株式会社を設立し、同じフロアに本社を置いてきました。設立当初は、親会社のマンパワー・ジャパンから委託された簡易な事務処理業務が中心でした。

現在では、名刺作成、社内便の発送、書類搬送、社会保険の事務手続き、勤務票の整理、経理、備品の受発注、データ入力、電話応対など、仕事の内容もレベルも多岐にわたっています。

仕事の内容が広がった背景には、「企業の社会的責任を果たし、社会といたに共存していくか」という企業理念が息づいています。障害の程度に応じた仕事をなんとか創り出そうと、上層部が知恵を絞ってきました。業務の創出に取組んだ仕事の中には、「コーヒーマーカーの注水」というものも含まれています。



社内外郵便の振り分け作業



交替で障害者も受付業務につく



車椅子で楽に業務に就ける広さを確保

### Close Up



総務部 部長  
上 園 宏 さん

## 資格を取得したいという社員を積極的に応援しています

障害者の方と個人面談を行う中で、わかったことがあります。それは、「障害者は別の障害者の役に立ちたいという希望を持っている」ということです。そこで知的障害者2名のサポートしてくれる障害者を募集したところ、視覚障害の方が応募してくださいました。先の2人には地域障害者職業センターのジョブコーチに来ていただき3カ月ほど指導を受けてもらい、その後は視覚障害者の社員を付け、現在は3人でチームを組んで仕

事をしてもらっています。ほかにも、視覚障害者のガイドヘルパーになって通勤の手伝いをしたいという人や、障害者職業生活相談員の資格を取得したいという人もいます。そういう社員には、会社側でもできる限り後押ししたいと思っており、前者はこの10月にガイドヘルパーの資格試験を受ける予定です。社員が資格試験にチャレンジしようと頑張ることで、仕事に対するモチベーションも上がる、これがいいですね。

## さまざまな工夫で職場定着を図る

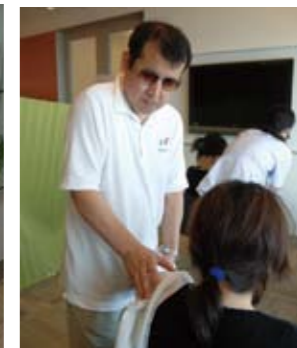
多岐にわたるのは業務だけではなく、社員の職場定着を推進するための制度も多く設けられています。その一つが定期通院制度です。人工透析や定期検査など、抱える障害によっては頻りに通院しなければならない場合もあります。障害者が周りの人への気兼ねや、不安を抱かずに通院できるよう、就業時間内での通院を認める制度です。

また、個人が体調に合わせて始業・終業時間を決められるシフト勤務制度もあります。当初は従業員の出勤が遅くなるのではとの懸念もありましたが、実際は就業時間をむしろ朝方にシフトする社員が増えるという結果になりました。

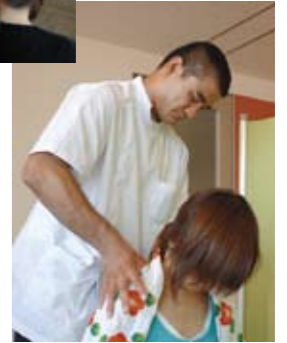
このような個人の状態に合わせた勤務条件は、年3回の個人面談によって、会社と障害者1人ひとりの話し合いのもとで決めています。そのために、親会社のマンパワー・ジャパンと協力し、月に1度、双方の管理職クラスが集まり、今後の推進策などを話し合っています。



休憩室であるカフェテラスの一角に設けられているクイックマッサージコーナー



社員は予約を入れておけば無料でクイックマッサージを受けられる



## 福利厚生の一環として クイックマッサージを立ち上げる



クイックマッサージ  
総括マネージャー

乙黒 正次さん  
(体幹機能障害)

ジョブサポートパワーの「クイックマッサージ」は、親会社であるマンパワー・ジャパンの社員と、登録している派遣社員に向けた福利厚生の一環として、約2年前に誕生しました。社員は時間の予約を入れれば、無料でマッサージを受けられます。

この部門で総括マネージャーとして活躍する乙黒さんは、この会社に入る前、立川で従業員10数人という接骨治療院を運営していました。体調を崩し体幹に障害を負ったため、治療院は親族に任せ、離職。その後、総務部長の上園さんに接骨治

療院経営の前歴を買われ、クイックマッサージの部門に採用されました。

ハローワークを通じて、マッサージスタッフを募集したところ、マッサージのできる視覚障害の方からの応募がありました。乙黒さんが面接し、採用後は技術指導を行っています。今では関東地区の他、東海・近畿地区にも広がり、スタッフの数も10数名と増えました。そのすべてを乙黒さんが統括しています。

日々の業務も、毎朝全スタッフのその日のスケジュールを立てたりスタッフの悩み相談に応じたり、乙黒さんの仕事は多岐にわたっています。「みんなが働きやすいといってくれるのがうれしいです。特にスタッフの心のケアを大切にしています」とも言っています。

ここでは、スタッフを「セラピスト」と呼んでいます。クイックマッサージは治療ではなく癒しを提供するサービスだということを認識し、マッサージを受ける側の立場に立って欲しいという願いから、そう呼んでいます。

## 地域密着型でより働きやすい環境を

他にも、肢体不自由者のためのトイレの改造や、知的障害者に専任サポーターを付けたり、通常は許されない2km内の通勤費を認めるなど、さまざまな制度を設けて雇用の定着に取り組んでいます。

今後は、今ある拠点では通勤に困難な障害者のために、各地にサテライトオフィスを設ける予定があります。通勤が難しい障害者にとって、身近に働きやすい環境が増えるメリットが生まれ、さらに、企業にとっても、拠点が広がることによって人材が集めやすくなり、事業の成長がはかれるということです。そのために、ジョブサポートパワーでは、障害者の雇用を促進し、職域を拡大するために、地域密着型の仕事をさらに創出したいと考えています。

## Position



いわゆる業務開拓  
を主な仕事に  
しています

総務部 主任  
森戸 祐一さん  
(内部障害)

以前は、ケーブルテレビ会社の猛烈営業人間でした。5年ほど前に発病し人工透析をするようになったので、2005年にこの会社に転職しました。親会社の業務の中から、こうすればジョブサポートパワーで業務を請け負えると提案し、内部でそれを精査し、誰に向いているかまで検討するという、親会社から委託される障害者の業務開拓が主な仕事です。しかし、実際はいろいろな業務に片足をつこんでいるというのが現状でしょうか。この会社に転職してから家族と一緒に過ごす時間が増え、妻や子どもにはとても喜ばれています。